

令和3年度生徒指導サポート実践校「特別活動の取組事例」

学校名	廿日市市立阿品台西小学校	校長	山田 祐樹	生徒指導主事	藤本 美香
-----	--------------	----	-------	--------	-------

取組事例名 『学校のきまり（生徒指導規程）を見直そう』

取組における育てたい資質・能力					
人間関係形成		社会参画		自己実現	
「多様性に対する適応力」	3	「課題発見・解決力」	1	思考力・判断力・表現力	2

取組のねらい

学校のルール（生徒指導規程）を自分たちで見直し、課題を解決する力を養う。

取組の具体的内容	取組の創意工夫 『自分たちで』
<p>○ 令和4年度の生徒指導規程を見直す。</p> <pre> graph TD A[企画委員会で参画方法について議論] --> B[児童] A --> C[教職員] A --> D[PTA] B --> E[運営委員会にて (6年生12名) (5年生12名) 見直しを図る。] E --> F[運営委員会] C --> G[生徒指導部会] D --> H[令和3年度はPTA 役員に、令和4年度から保護者にも 参画を依頼する。] </pre> <p>① 11月運営委員会で、生徒指導規程の読み合わせ。 ② 6グループに分かれ、改正に向けて意見交流。 ③ 6グループの意見交流後、全体で改正ポイントを提案。 ④ 教職員生徒指導部会で、改正ポイントについて検討。 ⑤ 12月教職員企画会議で提案。承認。</p>	<p>○ 自分たち(三者)の参画</p> <p>① 児童が ② 教職員が ③ 保護者が 自ら考える。</p> <p>本校では、毎年、教職員のみによる生徒指導規程の改定を行ってきた。本年度は、児童の参画を試み、多様な意見をまずは発信してもらうことから取り組んだ。どんな小さな発信でも否定的にとるのではなく、「なるほど。」と共感するように設定して、意見交流を行った。</p> <p>また、児童から出た意見を少しでも、令和4年度の生徒指導規程に反映させることが大切であると考えた。</p>

取組の成果と課題

- ・児童の意見から、寒いときの服装を改善することができた。(気温の低い日 → 教室でのジャンパーの着用や体育の時のセーター着用)
- ・今後は、体育の際には中学校や高等学校のように冬に長ズボンや上着も考える必要がある。
- ・児童の中には、マナー的なものも記載するべきだと出たが、どのように反映するべきか難しい。(例 トイレの便座の上に立たない。階段を一つ飛ばしにしない。教室や廊下で鬼ごっこをしない。など)